

1. 科目名 (単位数)	東アジアの中の日本文化 (2単位)		3. 科目番号	EIJP2381
2. 授業担当教員	野口 芙美			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>従来、日本の文化はアメリカやヨーロッパと比較され、その差異に目を向けられることが多かった。一方、東アジア諸国と日本は、古くからの交流の歴史において、人々の移動やそれにもなう文化の影響など、相互の共通性を有しているものの、一様というわけではない。</p> <p>本講義では、中国や韓国を中心とした東アジア諸国と日本の文化について、比較したり文化的特徴を見出したりしていく。日本文化や日本人の文化的行動との共通性や類似性ととも、日本との関係性や欧米との対比では見過ごされてしまいがちな差異などについて扱っていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本文化について、改めて考え理解を深めることができるようになる。</li> <li>2. 東アジア諸国と日本の関係について理解することができるようになる。</li> <li>3. 東アジアの文化について、共通性ととも差異性など多面的にとらえることができるようになる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業後は授業の感想・コメント、質問を記入して提出すること (事後課題)。</li> <li>2. 各自、身近な東アジア諸国の出身者にインタビューを行い、その内容を発表する (第7回)。発表後、インタビュー内容をレポートにまとめて提出する。</li> <li>3. 授業で扱った内容を参考に、一つテーマを決め具体的な例を示しながら日本と東アジアの文化を比較分析し、レポートにまとめて提出する (最終レポート課題)。</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】各講義で資料を配布する。</p> <p>【参考書】①石井健一編著『東アジアの日本大衆文化』蒼蒼社、2001  ②千野拓政編『越境する東アジアの文化を問う-新世紀の文化研究』ひつじ書房、2019  ※その他、授業内で適宜紹介する。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 (学習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本文化について、改めて考え理解を深めることができたか。</li> <li>2. 東アジア諸国と日本の関係について理解することができたか。</li> <li>3. 東アジアの文化について、共通性ととも差異性など多面的にとらえることができたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度 総合点の 30% : 積極的な参加、課題の提出状況などにより評価。</li> <li>2. グループ・ワーク 総合点の 30% : 共同作業での発言、役割貢献などにより評価。</li> <li>3. 試験・レポート 総合点の 40% : 基礎知識の理解、自身の意見の表出の程度により評価。</li> </ol> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は原則として認められない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>世界で日本語を学ぶ学習者のうち、東アジア地域の学習者数はダントツで、日本国内に留学している学習者も同じく東アジアが最多である。反対に、日本人の海外旅行先には常に東アジアの都市がランクインし、語学にしても中国語、韓国語を学ぶ日本人は非常に多い。近年では、音楽やアニメなどのサブカルチャーが相互に多くの人気を得ている。恐らく、皆も東アジアについて全く未知ということではなく、共通点を発見することも多いだろう。この授業では、日本と東アジア諸国がどんなところが似ているのか、逆にどんなところが異なっているのかを、様々な視点から検討していく。授業を通して、日本文化の魅力を再発見するとともに、東アジアに関する知識と興味が深まることを期待する。</p>			
13. オフィスアワー	初回の講義で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	オリエンテーション、東アジア諸国の概要、日本の中の東アジア		事前学習	東アジア諸国について知っていることやイメージをまとめておく。
			事後学習	身近な東アジア諸国出身者に日本文化についてインタビューする (第7回で発表)。
第2回	東アジアにおける日本語と日本大衆文化の広がり		事前学習	東アジア諸国における日本語、日本大衆文化について考えてくる。
			事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第3回	日本と台湾		事前学習	日本と台湾の歴史や関係について調べてくる。
			事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第4回	日本と香港		事前学習	日本と香港の歴史や関係について調べてくる。
			事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第5回	日本と中国		事前学習	日本と中国の歴史や関係について調べてくる。
			事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第6回	日本と韓国		事前学習	日本と韓国の歴史や関係について調べてくる。
			事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第7回	東アジア諸国の出身者に対するインタビュー発表		事前学習	インタビュー内容をまとめ、発表準備をす

			る。
		事後学習	インタビュー内容をレポートにまとめる。
第8回	データで見る日中韓①衣・食・住	事前学習	日本、中国、韓国の衣食住について考えておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第9回	データで見る日中韓②恋愛・娯楽・仕事	事前学習	日本、中国、韓国の恋愛、娯楽、仕事について考えておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第10回	データで見る日中韓③文化・経済・教育	事前学習	日本、中国、韓国の文化、経済、教育について考えておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第11回	文献②第一部 文化研究（カルチュラル・スタディーズ）の来し方行く末	事前学習	事前配布資料に目を通しておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第12回	文献②第二部 混迷する思想に向けて	事前学習	事前配布資料に目を通しておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第13回	文献②第三部 文学とサブカルチャーのはざままで	事前学習	事前配布資料に目を通しておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第14回	文献②第四部 一九八〇年代サブカルチャー再訪——アジアを貫く若者文化の起源	事前学習	事前配布資料に目を通しておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第15回	これまでの内容の振り返り、最終レポートの準備	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。最終レポートを作成する。